

平成29年度 河内長野市地域福祉推進協議会 会議録(要旨)

■日時・出席者等

日 時：平成29年8月28日(月)14:00～16:00

場 所：河内長野市役所3階 301会議室

出席者：委員 久 隆 浩 (近畿大学教授)
農 野 寛 治 (大阪大谷大学教授)
吉 村 禎 二 (河内長野市社会福祉協議会会長)
千 田 利 勝 (河内長野市民生委員児童委員協議会会長)
西 村 道 夫 (NPO法人はぴえる理事長)
竹 川 康 文 (河内長野市身体障害者福祉会会長)
山 田 昭 儀 (河内長野市老人クラブ連合会会長)
外 山 佳 子 (河内長野市医師会副会長)
山 本 淑 子 (河内長野市地域女性団体協議会会長)
吉 田 妙 子 (河内長野市人権協会副会長)
事務局 洞 渕 元 秀 (河内長野市保健福祉部長)
亀 井 則 彦 (河内長野市保健福祉部理事兼福祉事務所長)
中 橋 栄 一 (河内長野市保健福祉部いきいき高齢・福祉課長)
山 内 康 弘 (河内長野市保健福祉部いきいき高齢・福祉課課長補佐)
内 田 厚 (河内長野市保健福祉部いきいき高齢・福祉課主幹)
浦 田 尚 代 (河内長野市保健福祉部いきいき高齢・福祉課主査)
設 楽 光 雄 (河内長野市社会福祉協議会地域福祉課長)

■会議録(要旨)

開 会 (司会：いきいき高齢・福祉課長)

- ・出席数確認 (10人) → 過半数以上で会議成立
- ・洞渕保健福祉部長あいさつ
- ・新任委員紹介

案 件 (久会長が進行)

1. 第3次地域福祉計画・第2次地域福祉活動計画 平成28年度の実施状況及び評価について

<資料1参照>

会 長	事務局より説明を。
事務局	資料1に基づき説明
会 長	それでは、評価(案)についてご意見をいただきたい。
委 員	数値がわかるようなものは、数値の記載があればより評価しやすい。
会 長	来年度に向けて、できるところは数値の記載を。
委 員	小中学校に配布している福祉学習プログラムの中にも手話プログラムを入れてほしい。

事務局	プログラムの中には手話も含まれてる。たくさんのプログラムの中から学校が必要とするプログラムを選択していただいている。
委員	手話言語法なども視野に入れ、手話を選択するよう積極的に指導してほしい。
会長	別の市で手話言語条例を策定し、市長の挨拶の際には手話も使いながらということもある。条例を策定している他市も参考にしているかどうか。
委員	社協、キックス、るーぷらざの三者連携は進んでいるが、キックスの管理が指定管理者になってからるーぷらざを情報提供コーナーとして使えなくなった。人がたくさん集まる「市民交流センター」だからこそ、いろいろな場としてキックスを活用してはどうか。 また、ボランティアフェスティバルでは行政から積極的なPRをしてほしい。
会長	分野を超えた交流拠点機能の充実を。また、地域福祉活動に関する積極的なPRを。
委員	「長寿ふれあいガイドブック」や「あったか安心マップ」は便利であるが、スマホなどで読めるよう電子情報化してほしい。また、車いすで利用できるトイレや公共施設以外でAEDを設置している施設のマップがあれば良い。
会長	積極的な電子情報化に取り組んでいただきたい。
委員	いろんな分野で人材育成を行っているが、育成のみで終わり、せっかく育成した人材が活躍できる場が少ないように思う。育成から活動までをつなげる工夫が欲しい。
委員	千代田のまちづくり協議会では買い物支援が動き出している。 有償ボランティアがなかなか受け入れられないと聞いているが、河内長野市の現状はどうなのか？
事務局	無償ボランティアでは継続性などに限界がある。現在は全国的にも有償ボランティアが広がりつつあり、本市でも有償ボランティアも視野に入れた生活支援の仕組みについて検討しているところである。
委員	汐ノ宮で移動支援を導入しようとしている。個人で実施すると事故の場合どうするのか心配である。移動についてはどの地域でも困っている。堺市のようにバスのサービスがあれば良いと思う。
委員	堺市や大阪狭山市でバスのサービスをしているが、相当な出費があり、財政的に逼迫しているようだ。とは言え、河内長野は地形的に移動が大変であるので、移動支援について検討してほしい。
委員	モックルバスの見直しも検討してほしい。
会長	コミュニティバスは路線バスと同ルートを走れないという問題がある。 移動支援については全国的に色々なチャレンジが始まっているので、研究して河内長野版の導入を目指してはどうか。ただ、色々なチャレンジをしても利用が伸び悩むため社会実験どまりになることが多い。
会長	「居場所づくり」「生活支援」の2つの課題があげられているが、具体的にどんな課題があるのか。
事務局	現在、高齢者生活支援体制整備事業の中で検討している。 「居場所づくり」については、場所がないことが大きな課題である。

会 長	ある市では、空き家を活用して「居場所」を作る際には市社協が間に入る。また、固定資産税の減免もしているようなので、河内長野市でも空き家の活用を検討してみてもどうか。
会 長	昨年度の評価については、事務局案どおり「B」で良いか。 地域福祉推進協議会としての総合評価は、この場に出た意見を事務局が取りまとめて後日郵送するので、その確認を。

2. 平成29年度の主な取り組みについて

＜資料2＞参照

会 長	事務局より説明を。
事務局	資料2に基づき説明
会 長	それでは、平成29年度の取り組みについてご意見をいただきたい。
委 員	既存の交流の場をどう活かすかを考えていかないといけない。新しい場所を確保するのはなかなか難しいので、既存の施設を上手に活かしていく工夫が必要だと思う。
委 員	既存の施設も良いけど、「地元」でつくるのが大切。例えばコノミヤテラス（コノミヤ2階）では、いつでも行けるような子どもの居場所づくりをしている。また、1階では買い物支援も始めている。 その地域で何ができるか、何が必要か考えていく必要がある。
会 長	居場所については、場所と担い手の両輪で進める必要がある。
事務局	場所の確保が難しいという話があるが、一人暮らしの高齢者宅を子どもの居場所として開放しているような事例が関東の方にある。
会 長	そういった好事例をいつでも見られるようにしてほしい。HPなどでちょっと見られるようにしておけば、活動が広がるきっかけになる。
委 員	市町ダイアリーを一つのモデルとして、地域に応じた工夫をしながら広げていけたらと思う。併せて、これからは事例の発信なんかも積極的に行っていきたい。また、空き家を居場所として借りた場合、固定資産税の減免などがあればもっと進んでいくと思う。
委 員	老人クラブは当事者団体として支援されるばかりでなく、相互支援をしていきたい。友愛活動として訪問や見守り、生活支援などで他団体とも連携しながらやっていきたいと考えている。 ところで、平成29年4月から介護保険制度の要支援1と2が新しい制度に移行したと思うが、そのあたりどうなっているかを聞きたい。
事務局	介護保険事業から市町村独自の事業に変わり、本市ではこの4月から移行している。大きな変更のポイントとしては、介護予防や自立支援、担い手不足に対応した仕組みづくりなどがある。大きな混乱が起こらないよう、チェックリストに基づき対象者の意向も確認しながらプランの作成をしている。
会 長	市町村事業になったという事は、今後10年で市町村間で大きな差ができてくるといこと。河内長野市も独自の事業を地域の方々と支え合いながら進めていけると良いと思う。

委員	居場所づくりの話題が出ていたが、地域によっては有料の施設しかないところもある。それだけが問題な訳ではないが、活動を継続するにあたっては負担になってくる。活動を始めるにあたり、市からの資金援助があればもっと進んでいくのでは。
会長	先ほど話題に出た有償ボランティアも言い方を変えれば、資金的な支え合いと言える。市からの補助もいつまでもある訳ではないので、協賛金や寄附、サービスの対価など、みんなで資金を出し合いながら活動を支えていくという考え方もある。 また、場所の話で言えば、企業の持っているスペースを使わせてもらうということも考えられる。ダメ元でお願いして、地域のためであればという良い返事があったケースもある。社協や市も一緒に地域と企業の社会貢献をつなぐ手伝いができれば良い。
副会長	居場所と言っても、いくつかのタイプがあり、活動の拠点や住民の憩いの場所などがある。今話題にあがっているのは、住民の憩いの場、くつろげる場所で、広いスペースは必要ない。一つの居場所を特定目的だけで使っていて良いのか、時間別を使い分けることを考えないといけない。限りある資源をどのようにシェアできるかということが大切。 今日あげられた意見を聞いていると、居場所や人材発掘など、共通している根深いものがあるように思える。地域福祉を考えるこのような場で、居場所をどうしていくか、などテーマを絞って検討しても良いのではないか。 また、生活支援コーディネーターやCSWがつかんでいる地域での課題などを教えていただけたらと思う。
会長	この推進協議会のあり方について、年に1回評価をするだけでなく、地域福祉の推進に関してアイデアを出し合うことも検討してはどうか。 ほかに、案件について意見はないか。

3. その他

- ・ 1件のイベントの告知あり
- ・ 事務局から事務連絡（会議録の公表のお知らせと文面校正のお願い等。）

閉 会

(終)